【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年6月1日(2006.6.1)

【公表番号】特表2002-510613(P2002-510613A)
【公表日】平成14年4月9日(2002.4.9)
【出願番号】特願2000-541976(P2000-541976)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　9/08　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/18　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/22　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　9/08
Ａ６１Ｋ　47/18
Ａ６１Ｋ　47/22
Ａ６１Ｐ　27/02

【手続補正書】
【提出日】平成18年3月31日(2006.3.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
外科手術の間に眼を灌注するための眼灌注溶液であって、炭酸水素イオンの供給源とｐＨ６．８～８．０に緩衝能を有する有機両イオン性緩衝剤である生理的に許容され得る有機緩衝剤とを含んでなる溶液。
【請求項２】
有機緩衝剤が溶液を７．２～７．８のｐＨに維持する、請求項１記載の眼灌注溶液。
【請求項３】
有機緩衝剤が両イオン性アミノ酸である、請求項１又は２記載の眼灌注溶液。
【請求項４】
有機緩衝剤がＮ－２－（ヒドロキシエチル）ピペラジン－Ｎ’－（２－エタンスルホン酸）である、請求項３記載の眼灌注溶液。
【請求項５】
緩衝剤の濃度が１０～５０ｍｍｏｌ／ｌである、請求項１～４のいずれか１項に記載の眼灌注溶液。
【請求項６】
炭酸水素イオン供給源が炭酸水素ナトリウムである、請求項１～５のいずれか１項に記載の眼灌注溶液。
【請求項７】
炭酸水素イオン供給源が、１０～５０ｍｍｏｌ／ｌの炭酸水素イオン濃度を与えるために溶液中に存在する、請求項６記載の眼灌注溶液。
【請求項８】
グルコースも、生理的ｐＨにおいて長い時間をかけて分解する傾向があるあらゆる他のエネルギー源も含有しない、請求項１～７のいずれか１項に記載の眼灌注溶液。
【請求項９】

オートクレーブ法により滅菌された、請求項１～８のいずれか１項に記載の眼灌注溶液。

【請求項１０】

眼について行われる外科手術法において使用するための、請求項１記載の眼灌注溶液。

【請求項１１】

請求項１～９のいずれか１項に記載の眼灌注溶液の使用方法であって、眼について行われる外科手術法において、該眼灌注溶液により手術の間の流体損失を補って、角膜の機能を維持する、前記使用方法。